



児童文化研究会がめざすもの

会長 川崎市立金程小学校 校長 古賀 千穂

この2年間、人と人が直接関わりづらい状況が続いています。そんな中だからこそ、演劇的表現活動を通して表現する楽しさや喜びを感じ取り、表現力やコミュニケーション力・創造力・想像力などの様々な力を伸ばすこと、また課題に向かって人と協力しながら創り上げていく活動を通して、自己肯定感を高め他者への理解を深めていくことが大切だと、あらためて考える日々です。

さて、本研究会では表現力とコミュニケーション力を高める活動を通して、研究主題である「主体的に活動し豊かな人間関係を築く子どもの育成」を目指して、研究に取り組んでいます。

研究の重点として、「教科、領域の目標及びねらい達成のための、演劇的表現活動を取り入れた授業実践」と「人間関係力育成のための、日常的な演劇的表現活動の実践」を行っています。

今年度は7月と1月の授業研究会、7月の小教研大会分科会、8月の夏期研修会等を予定しています。

演劇的な表現活動を通して、「心と体を解放して、楽しみながら進んで表現を楽しむ子」「対話を通して、自分の考えを広げたり深めたりする子」「共に創り上げていく中で多様な思いや考えを認め合い、よりよい集団をめざす子」を育てていきたいと思えます。

今年度も皆様といっしょに研究を進めて行きたいと思えます。どうぞよろしくお願いいたします。

◆研究会研修会報告

自己肯定感を育む表現の授業

～前向きに生きる力をつける演劇ワークショップ～

講師 こども教育宝仙大学教授 照屋 洋先生

日時：令和4年5月11日（水）午後2時より

会場：各所属校にてGoogleミートによるオンライン開催

昨年度同様、オンラインで配信して研修を行いました。

はじめに照屋先生の中学校の教師時代のお話から、子どもたちとの心の関わり大切さについて実感しました。その後、実際に体を動かしながら、子どもたちとできそうな活動について、紹介してくださいました。その中で照屋先生は、ちょっとした工夫を加えると子どもたち



講師の 照屋 洋先生

が動き出す仕組みや、相手への気遣いや思いやりが自然と意識されるような仕掛けなどについて教えてくださいました。ゲームや活動についての楽しさとともに、こんな効果があるんだと子どもたちに気付かせるように伝えることも大切である、とおっしゃっていました。人との関わりが苦手と感じる子どもたちが増えている今、たくさんの人たちと関わっていくことの大切さを子どもたちに伝えていきたいと感じました。



下布田小を会場に各校へオンライン配信しました。

～アクティビティ紹介～

- かかとあるき・手を挙げて、手のひらを上にする ⇒ 姿勢が自然とよくなる工夫
- 足首を持ちながらまわす ⇒ ケガが少なくなるので1日60回は回すと良い。
背中では緊張せず、ゆっくり息をしてリラックス

- 立ち上がり足先をタッチ
⇒腰の上あたりの筋肉をつまんで上にのぼしていく・つかんで前かがみをする
ことで腰回りの筋肉がほぐれて柔軟な体になる。

- 自分の誕生日の季節同士で集まる
その季節でイメージした色々な音を一人一人が出して、自分の仲間を見つける。
(例) 夏なら・・・ジリジリジリ、ミーンミンミン、キラキラなど

- ウォーキング
はじめは自由に歩かせる。徐々に空間が均等になるように意識をさせてみる。さらに他者を意識させるために
「眼鏡をかけていた人はどの辺りにいたかな」などと伝えて、視野を広げさせる。

- 全員で言われた形をつくる
会話はせずに、例えば○や△などの形を全員で作る。自分が形のどの部分なのか
を意識させることができる。お題の例として、正方形・?・A・R・右など。簡単
なものから徐々に難しい形にしていくと良い。

- 二人組

- ①数字を交互にいう。3までなら「1」「2」「3」「1」・・・など
- ②2のときに前で手をたたく 「1」「2」パン! 「3」「1」「2」パン!
- ③3のときにひざをタッチ 「1」「2」パン! 「3」ひざをタッチ! 「1」「2」
パン!・・・
- ④ミラーリング 相手の動きを真似する。自分にはない動きに楽しさを感じる。相手が同じ動きをすると嬉しい。
- ⑤ついていく 自分の手のひらを見せて、それをペアの人はひたすら目を離さずに追いかける。手のひらにかわ
いしいシールなどが付いていると和やかにできる。

- 円になって

呼ばれたい名前で自己紹介し、その名前をおぼえて名前を呼びながらキャッチボール。名前を覚えられない子
もいるので、名札をつけるなど工夫もできる。

- 進化じゃんけん

最初はみんな魚になって(動作も添えて)、魚同士でじゃんけんをし、勝ったら鳥になる。鳥同士でじゃんけん
をして、勝ったら猿になる。猿同士でじゃんけんをして勝ったら人間。人間になった人からあがり。終わった
人は応援をすることで、見ていてもつまらなくならず、場が和やかになる。

- 1・2・3(組みたいグループ数で)と番号をつけてのグループ作りをする。

- ①くまがきた 「くまがきた!」と最初の人が言ったら後ろの人は「え?」という、最初の人は、もう一度「く
まがきた!」と伝える。2番目の人は2回目で次の人に「くまがきた!」と伝え、3番目の
人が「え?」という。そのまま前の人まで「え?」で返して最後の人までいったら、一番後
ろの人が前の先生に「くまがきた!」と伝える。

- ②お手玉キャッチ お手玉を同時に投げて、隣の子のお手玉をキャッチする。グループで協力して、声を掛け
合うことが必要。

- かけあしポーズ

かけ足しながら、先生のお題を聞いて即興でそのものの形になりきる。あ
まり考えずにぱっとできるよう、はじめはかけ足とする。どれが正解?と
聞き、「全部が正解だよ」と、みんな違うから学び合えることを伝える。
お題の例として、机・イス・花など。

- ★どれも次の日から使える、ほっこりと心温まるアクティビティでした!
ぜひクラスでも試してみてください。



第1回授業研究会・研修会のお知らせ

日時 令和4年7月6日(水)
場所 川崎市立小倉小学校
学年・教科 2年・生活科 「どきどき わくわく まちたんけん」 授業者 安西 学 教諭
研修講師 中原小学校 原 千恵子 教頭
詳細はあらためてお知らせします。